



## “よねやま”から広がる新しい世界 ② 家族の絆で結ぶ懸け橋



越谷 R C  
(第 2770 地区 埼玉県)

カウンセラー  
須賀 定吉 さん

### 先輩カウンセラーの交流に刺激を受けて

越谷ロータリークラブ(RC)は、創立54年目で会員数90人。老壮青がうまく調和していて仲の良いクラブです。クラブではこれまで20人の米山奨学生をお世話してきましたが、どの奨学生にも分け隔てなく、できるだけ例会やクラブの行事に誘って、会員は親しみを持って接してきました。私がカウンセラーに手を挙げたのも、韓国出身の米山奨学生のカウンセラーを務めた会員が、実に親身に世話をし、本当の親子のように交流している姿を見て、「私も一度やってみたい」と思ったからです。

地区の奨学生オリエンテーションで初めてゲンさんに会った時は、「小柄でおとなしい子」という印象でした。後から聞くと、彼女からあまり話さなかったのは、私が怖かったから(笑)。いろいろ話をしていくうちに互いに理解が深まり、どんどん親しくなりました。一度、家に連れていったところ、家内や娘、孫までが彼女と仲良くなり、今では私を飛び越して、一緒に遊びに行ったり、食事をしたりと、家族同然の付き合いをしています。

### 感動を分かち合った国際奉仕活動

ゲンさんのカウンセラーになって、うれしいことがたくさんありました。大学の卒業式、大学院の入学式、就職など、一つひとつの節目を迎えて、彼女の頑張った結果を共に喜ぶことができました。そして、前年度実施したベトナムへの国際奉仕活動では、奉仕の感動を彼女と、会員のみんなで分かち合うことができました。

前年度、国際奉仕委員長を務めていた私は、国際奉仕

を重視する会長の方針を受け、「ベトナムの子どもたちに何か支援ができないだろうか」とゲンさんに相談しました。その結果、彼女の両親が住むベトナム中部の都市ダナンから、さらに約60km離れたビンフー幼



ろ過した水で乾杯！音頭を取る須賀氏とゲンさん

稚園というところに、水のろ過装置を設置するプロジェクトを行うことになりました。現地ではゲンさんの家族が献身的にサポートしてくれて、彼女自身は、現地とのさまざまな連絡・調整役を務めてくれました。

今年1月、贈呈式のために現地を訪れたわれわれ一行を、ビンフー幼稚園の園児と先生が温かく迎えてくれました。ろ過装置を使って出した水で全員が乾杯し、ゲンさんの通訳で、「これで水を買わずに、飲み水や給食用に使えて、大変助かります」という園長先生からの感謝の言葉が伝えられました。園児たちが披露してくれたかわいいダンス、ゲンさんの家族との交流……。参加した全員にとって、一生忘れられない旅になりました。

### 米山奨学生を支援するということ

最近になってわかったことがあります。米山奨学生を支援するということは、苦勞している留学生への資金面の援助ではなく、彼らが母国と日本との“平和の懸け橋”になるよう育てていく「心の支援」なのだ。ゲンさんはもう卒業してしまいましたが、彼女がいずれベトナムと日本との懸け橋となって活躍してくれるよう、これからも見守り、支えていきたいと思ひます。

先月からスタートした新シリーズ「“よねやま” から広がる新しい世界」。第2回となる今回は、ベトナム出身の元奨学生、ゲン・デュン・ティハイさんと、そのカウンセラーを務めた越谷ロータリークラブの須賀定吉さんを紹介いたします。共に、米山奨学生になって、カウンセラーになって生まれた一番の変化は「家族が増えたこと」と答える二人ですが、その絆はゲンさんの母国、ベトナムでの国際奉仕活動を通じて一層強くなったようです。



米山学友  
ゲン・デュン・ティハイさん

出身：ベトナム  
奨学期間：2011 - 13  
学校名：埼玉大学

### ロータリーは日本の家族

米山奨学生になって一番良かったことは、日本に越谷RCという家族ができたことです。例会では毎回、たくさんの会員から声をかけられ、食事やホームパーティーに招待してもらうなど、いい思い出がたくさんできました。それまで日本人と接する機会がほとんどなかった私にとって、本当にうれしい経験でした。

須賀お父さんとの最初の出会いは、今でも鮮明に覚えています。貫禄があり近づきにくい印象でしたが、話をすると、とても気さくな人とわかり、懐の深さを感じました。当時、多くの米山奨学生が自分のカウンセラーを初対面から「お父さん」と呼んでいたのですが、私にはどうしてもできませんでした。けれども、お父さんから心を開いてくださったおかげで、いつしか私も自然と「お父さん」と呼べるようになりました。須賀お父さんも、その家族も、今は私の大切な家族で

す。一生、この絆を大事にしていきたいと思います。

### やってできないことは何もない

お父さんからベトナムでの国際奉仕について相談を受けた時は、多くの国の中からベトナムを選んでくれたことに、感謝の気持ちでいっぱいでした。あまり役に立つことはできませんでしたが、越谷RCの皆さんと力を合わせてプロジェクトを成し遂げ、子どもたちの笑顔を見た時には、ほっとしました。これまで与えられてばかりいた私ですが、これから少しずつ、自分にできることで恩返ししていきたいと思っています。

今は新米の社会人として、米山奨学生のころと同じ気持ちで、毎日一生懸命に頑張っています。仕事は鉄鋼会社の開発部で、自然災害から人命を守る防災用品の開発・設計に携わっています。この仕事で得た技術を、いつか母国の発展に生かせるよう、「やってできないことは何もない」をモットーに、どんな試練も逆境も、成長への好機につなげていきたいと思っています。

### ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



### 故郷の発展に尽くした米山学友

中国甘肅省定西市臨洮県の県長を務めていた米山学友、柴生芳さん（2001 - 02 / 神戸中RC）が8月15日、45歳で亡くなりました。柴さんは神戸大学大学院を卒業後、貧しい故郷のために働きたいと故郷に戻り、留学経験のある数少ない官吏として活躍。県長就任後は執務室のドアを開放し、市民の声を最優先する指導者として慕われていましたが、過労もあってか、同日朝に亡くなりました。葬儀の日には数万人の市民が沿道に出て、故人を乗せた車を見送りました。留学時代から親交のあった宋小華さん（2000 - 02 / 神戸ハーバーRC）が中国米山学友会上海分会と中国神戸大学同窓会を代表して、夫人と幼子のために香典を届け、哀悼の意を表しました。



柴さん(左)と永井幸寿カウンセラー